

「主イエス・キリストによる救いにあずからせる」 2018年11月23日

テサロニケの信徒への手紙 ー 5章1節～11節 兄弟たち、その時と時期についてあなたがたには書き記す必要はありません。盗人が夜やって来るように、主の日は来るということを、あなたがた自身よく知っているからです。人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破滅が襲うのです。ちょうど妊婦に産みの苦しみがやって来るのと同じで、決してそれから逃れられません。しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にいるわけではありません。ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはないのです。あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。眠る者は夜眠り、酒に酔う者は夜酔います。しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいきましょう。神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです。主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

パウロは、テサロニケのキリスト信徒たちのことを案じて、テモテを派遣した。テモテは、彼らが迫害にめげず信仰に生きている喜ばしい様子を報告した。主イエスの再臨の時、どんなことが起こるのか、再臨前に眠った人々は、キリストとの関係が切れるのではないかという彼らからの質問を持ち帰った。パウロは、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、彼らが、生き残っている者より、優先すると答えている。そして、主イエスが来られる日、生き残っている者も天から降って来た主イエスと空中でまみえ、雲に包まれ全き「天の国」に迎えられ、いつまでも主イエスと共にいることになると、黙示文学的に答えている。パウロは、主イエスが来られる時と時期について、あなたがたに書き記す必要はないと言っている。マルコ福音書13章32節に、主イエスは雲に乗って再臨されると語っているが、「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子（主イエス）も知らない。父だけがご存じである」と、神の専権事項であると語っている。

パウロは、盗人が夜やって来るように、人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破滅が襲い、ちょうど妊婦に産みの苦しみがやって来るのと同じで、主の日が来ることから決して逃れられないことをあなたがたはよく知っていると言っている。しかし、あなたがたは暗闇の中にいるのではないから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはない。「あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。」私たちは、夜にも暗闇にも属していない。他の人々のように眠っていないで、その日に備え、目を覚まし、身を慎んでいよう。眠る者は夜眠り、酒に酔う者は夜酔うが、私たちは昼に属しているから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいよう。「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです。」主イエスは、私たちのために死なれましたが、それは、私たちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためである。だから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさいと勧めている。